

# 農 学 部

生産農学科

環境農学科

先端食農学科

## 人材養成等教育研究に係る目的

農学部は、これからの日本に求められる国際競争力の維持・向上、活力ある地域社会の構築という重要課題に「農学」という「食」、「環境」、「健康」に直結する学問領域を通じて、果敢に取り組み、問題を発見・解決する意欲と実行力のある人材の養成を目的とする。実物教育、総合的・学際的視点、国際性、倫理観の4つを重視する教育・研究を展開し、「生産農学」、「環境農学」、「先端食農」という広い視野で農学全般を捉えることを特色とする。これらを通じ、科学の基本である「なぜ？」という鋭い視点を持つ知的好奇心旺盛な人材養成を達成する。

生産農学科は、あらゆる生物を人間生活の貴重な「資源」としてとらえ、生物の持つ機能や特性を分子から個体の視点で追究できる人材の養成を行う。具体的には、有用微生物や有用天然物の探索、遺伝子組換え・昆虫の飼育・植物の栽培などの理論と技術を学修後、新機能の開発に結びつく研究を進める。これらの学修を通じて「生命の尊厳」・「他の生物との共存」などの倫理観を培い、食と農の安全安心に貢献できる人材養成を目指す。また、生産農学科は教員を養成するプログラムを設けており、中学・高校（理科）及び高校（農業）教員を育成する。

環境農学科は、自然環境や生産環境をよく理解し、地域性と国際的なセンスを兼ね備え、持続的循環型社会の構築に貢献できる人材の養成を行う。具体的には、農学に関する分野・諸問題に強い興味や取り組む意欲を持ち、生態系、農業生産、社会の3つの視点から「環境」を理論的・実践的に理解し、さまざまな問題解決に必要な主体性と協調性を身につけた人材を育成する。

先端食農学科は、食料や食品の安全性や信頼性に関心が高まる中、既存の農業を越えた新たな食料生産のしくみや食品の機能性、食品製造にかかわる専門的な知識と実践的な能力を身に付けた人材を養成することを目的とする。植物工場や陸上養殖など最先端のシステム化された食料生産に関する知識や能力を修得し、また食品の機能性や安全性、食品の製造・加工に関する知識や能力を習熟できる学修環境の提供を通じて、食料生産、食品加工の現場で活躍できる人材を養成する。

## 農学部 ディプロマ・ポリシー

農学部は、人材養成目的に基づくカリキュラムを通して、以下の知識・技能・態度を学士力として修得・涵養し、卒業要件を充足した者に、学士（農学）の学位を授与する。

- ① 農学をはじめとし、様々な自然科学分野の情報を、収集・分析・理解・説明することができる。
- ② 生物学や化学を基盤とした農学に関連する科学的知識を、社会で必要とされる新たな知識・技術の発見や獲得、持続可能な発展、地域や地球規模での環境保全に応用できる。
- ③ 社会の一員として、協調性や共同作業における役割分担の重要性を理解し、それらの態度・志向性を持ち、生涯にわたって学ぶ姿勢を維持・向上することができる。また、それらを通じて社会に貢献できる。

学位授与に当たり、各学科が重視する学士力は次の通りである。

### [生産農学科]

生産農学科が重視する学士力には以下の項目が挙げられ、これらの力を身につけることが卒業時における到達目標となる。

- ① 生物資源を有効利用するために必要な自然科学の情報を収集・分析・理解し、正しく活用することができる。
- ② 農学に関連する専門的知識や理論を体系的に修得、理解し、関連産業の持続可能な発展や環境保全に応用できる。
- ③ 実験・実習を通して技術と理論を修得することができる。
- ④ 農学の学びに基づいて、協調性や倫理観を身につけ、社会に貢献できる。

理科教員養成プログラムに所属する学生については、以下の学士力を身につけることが到達目標となる。

- ① 自然科学の情報を、収集・分析・理解・説明することができる。
- ② 協調性や共同作業における役割分担の重要性を理解し、それらの態度・志向性を持ち、生涯にわたって学ぶ姿勢を維持・向上することができる。また、それらを通じて社会に貢献できる。
- ③ 理科や農業の面白さや大切さを理解し、理科教育または農業科教育に必要な情報を収集・分析・理解し、生徒等にわかりやすく説明できる。
- ④ 理科教育や農業科教育に必要な実験や実習を、生徒等に正しく、安全に指導できる。
- ⑤ コミュニケーション力、語学力、文章作成力、計算力、協調性など、さまざまな問題に対する解決能力を修得し実践できる。

### [環境農学科]

環境農学科が重視する学士力には以下の項目があげられ、これらの力を身につけることが卒業時における到達目標となる。

- ① 生態系を構成する生物・環境を理論的、実践的に学修し、これからの生物生産システム、環境社会的な知識を通して、環境問題にさまざまなレベルで対応できる知識・技術を修得する。
- ② 海外留学（カナダ、オーストラリア）および国内（北海道、鹿児島、箱根町）にある本学の各施設を利用したカリキュラムにより、生物と地球のつながりを体系的に理解できる能力を修得する。
- ③ 国際社会の一員として、協調性、寛容な態度や社会貢献の重要性を理解し、それらを生涯にわたり向上し続ける力と国際性を修得する。
- ④ 言語や文化の多様性を理解、受容でき、問題解決のために国際的な視野を持って積極的に行動することができる。

### [先端食農学科]

先端食農学科が重視する学士力には以下の項目が挙げられ、これらの力を身につけることが卒業時における到達目標となる。

- ① 世界の食料生産や食料需給、食品加工や食品製造に関わる状況を理解し、それらに関わる専門的な知識と実践的な能力を修得することにより、社会で必要とされる食料生産や食品加工の現場で貢献できる。
- ② 自然科学、特に化学と生物学を習熟した上で、食料生産や食品加工について修得した知識と実践的な能力を食料の生産、加工現場に適用して生かすことにより、安全で効率的な食料供給に貢献できる。
- ③ 実験実習と講義を並行しながら理論とスキルを修得することができる。
- ④ 情報を収集し、分析することで、自ら解決法を考え提示することができる。